

第2章 地域の概況

第1節 自然環境特性

1. 位置・地勢

本市は、和歌山県の北東端に位置し、北は大阪府河内長野市、東は奈良県五條市、南及び西は伊都郡かつらぎ町、九度山町、高野町に接しています。和歌山市中心部、大阪市中心部への距離は、直線でもともに約 40 km です。本市の中央部には紀の川が東西に流れ、北部は河岸段丘からなる丘陵地、南部は紀伊山地に連なっています。

本市の位置図を図 2-1-1 に、地形を図 2-1-2 に示します。

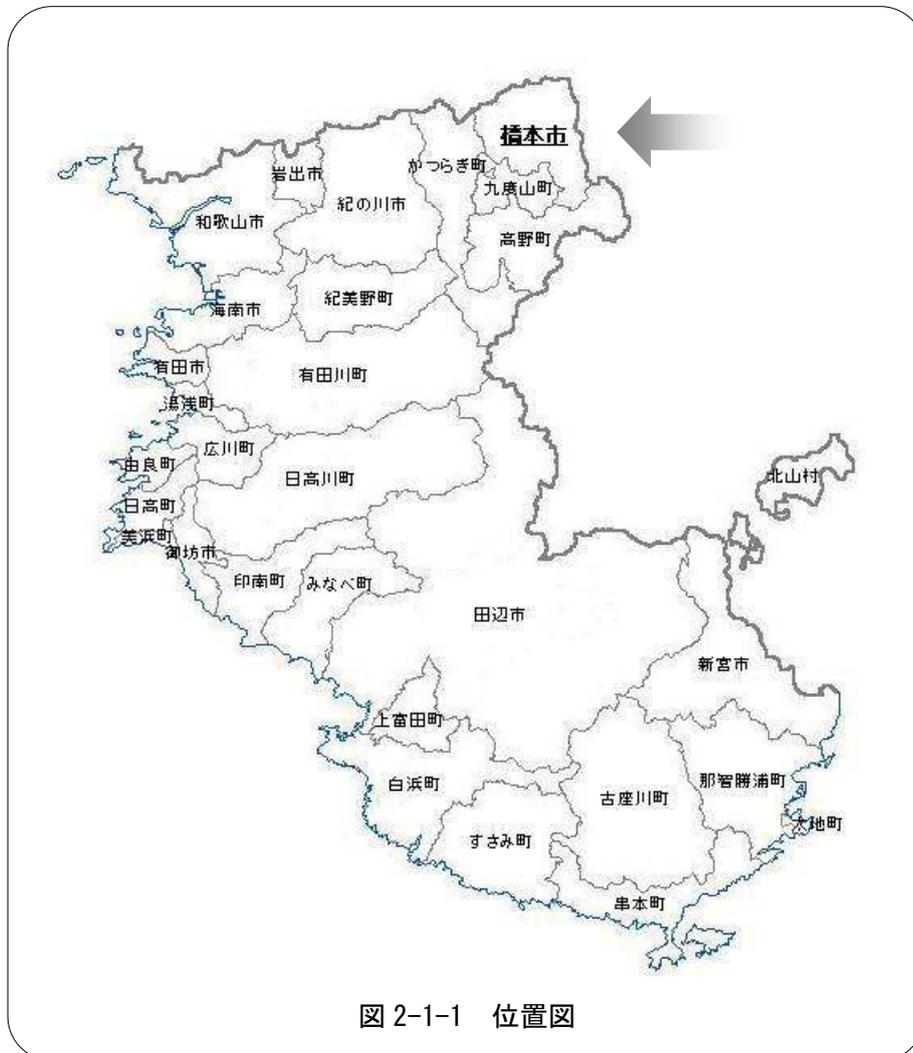




图 2-1-2 地形（鳥瞰図）

2. 気候

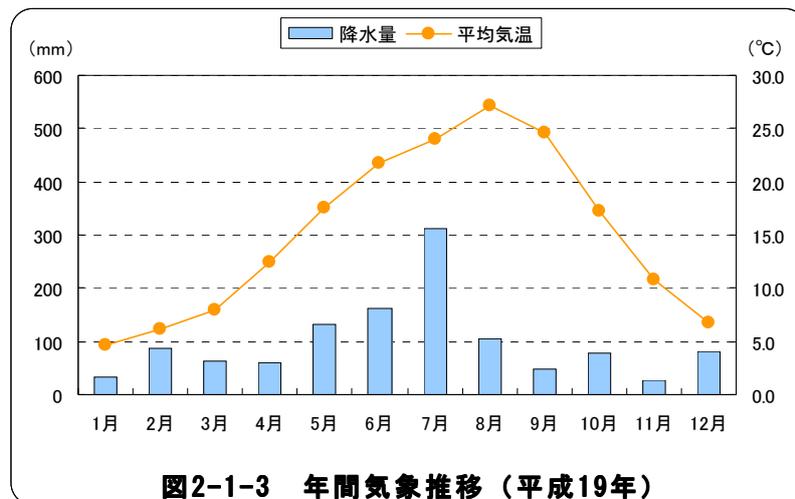
気候は瀬戸内式気候帯に属し降水量は比較的少ないものの、年間の気温の高低差が大きく、内陸性気候の傾向も示しています。

最寄りの観測地点であるかつらぎ地域気象観測所における降水量及び気温の推移を表 2-1-1 に、平成 19 年の月別降水量及び平均気温を図 2-1-3 に示します

過去 5 年間の推移をみると、平均気温は 14.5℃～15.4℃と温暖な気候に恵まれており、年間降水量は 1,191mm～1,682mm でした。

表 2-1-1 降水量及び気温の推移

	気温(℃)			降水量 (mm/年)
	最高	最低	平均	
H15	34.7	-5.9	14.5	1,682
H16	36.3	-3.8	15.4	1,619
H17	36.3	-3.9	14.6	1,195
H18	37.3	-5	14.7	1,429
H19	37.3	-4.7	15.1	1,191



[出典]気象庁 気象統計情報

[地点]かつらぎ地域気象観測所(北緯 34 度 18.6 分、東経 135 度 31.7 分、標高 142m)

3. 水系

本市の水系は、一級河川である紀の川本川流域と、橋本川流域、山田川流域、田原川流域、嵯峨谷川流域などの支川流域などで形成されています。

紀の川は、日本最多降雨地帯として知られる大台ヶ原にその源を発し、高見川、大和丹生川、橋本川、貴志川などの支川を集めながら紀伊半島の中部を西流し、和歌山市において紀伊水道に注いでいます。その流域は、大半が山地により占められており、奈良県、和歌山県にまたがる流域面積は 1,750 k m²、幹線流路延長は 136 k mとなっています。

4. 植生

本市の植生は、市域北部の丘陵地及び地域南部の山地におけるスギ、ヒノキ、サワラなどの常緑針葉樹と、市域中央部の水田雑草群落から構成されています。また、市域南部には、一部モモツツジ-アカマツ群落がみられるとともに、市全域にはコナラなどの広葉樹林も点在します。和歌山県の森林・林業及び山村の概要によると、平成 19 年度の市全体に占める林野率は約 60%であり、そのうち人工林が約 62%を占めています。

また、平成 14 年 8 月～平成 15 年 10 月に実施された本市内における地域の特徴的な動植物及び貴重種の生息・生育状況の把握調査によると、ホタルブクロ、ヒシ、ジュンサイ、ショウブ、ヘラオモダカが確認されています。

5. 動物

平成 14 年 8 月～平成 15 年 10 月に実施された本市内における地域の特徴的な動植物及び貴重種の生息・生育状況の把握調査によると、両生類としてはカジカガエル、昆虫としてはオオルリボシヤンマ、ゲンジボタル、タイコウチ、鳥類としてはカワガラス、ミソサザイが確認されています。

また、平成 15 年 12 月～平成 16 年 1 月に実施された身近な水辺の生きもの調査によると、農業用水路、集落内水路、ため池、河川において、魚類としてはタナゴの仲間、カワムツ、モツゴ、ドジョウ、ドンゴ、ヨシノボリの仲間が確認されており、その他水生昆虫類や両性・は虫類、貝・エビ・その他小動物が多数確認されています。

[参照]「橋本市環境基本計画」(平成 20 年 3 月)

第2節 社会環境特性

1. 人口

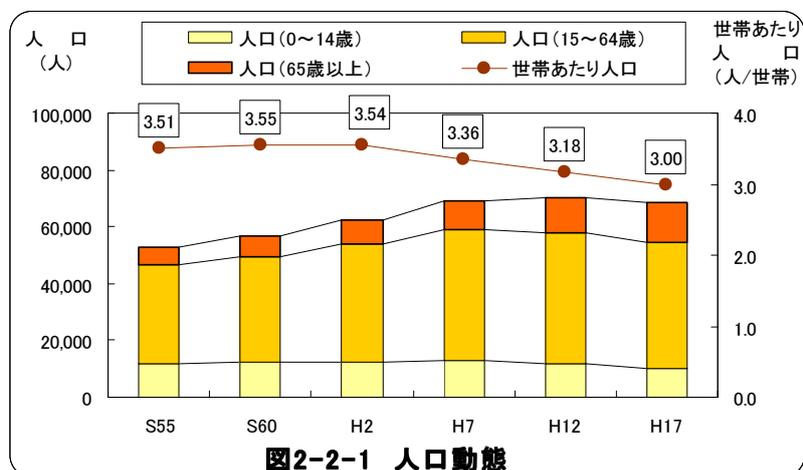
本市の人口は、平成11年をピークに人口は減少に転じその傾向は現在でも続いている状況です。年齢別にみると、0～14歳及び15歳～64歳人口が減少していますが、65歳以上人口は増加傾向にあり、高齢化社会を顕著に表しています。

世帯数は、年々増加しており、1世帯あたり人口は減少を続けていることから、核家族化や高齢者世帯の増加がうかがえます。

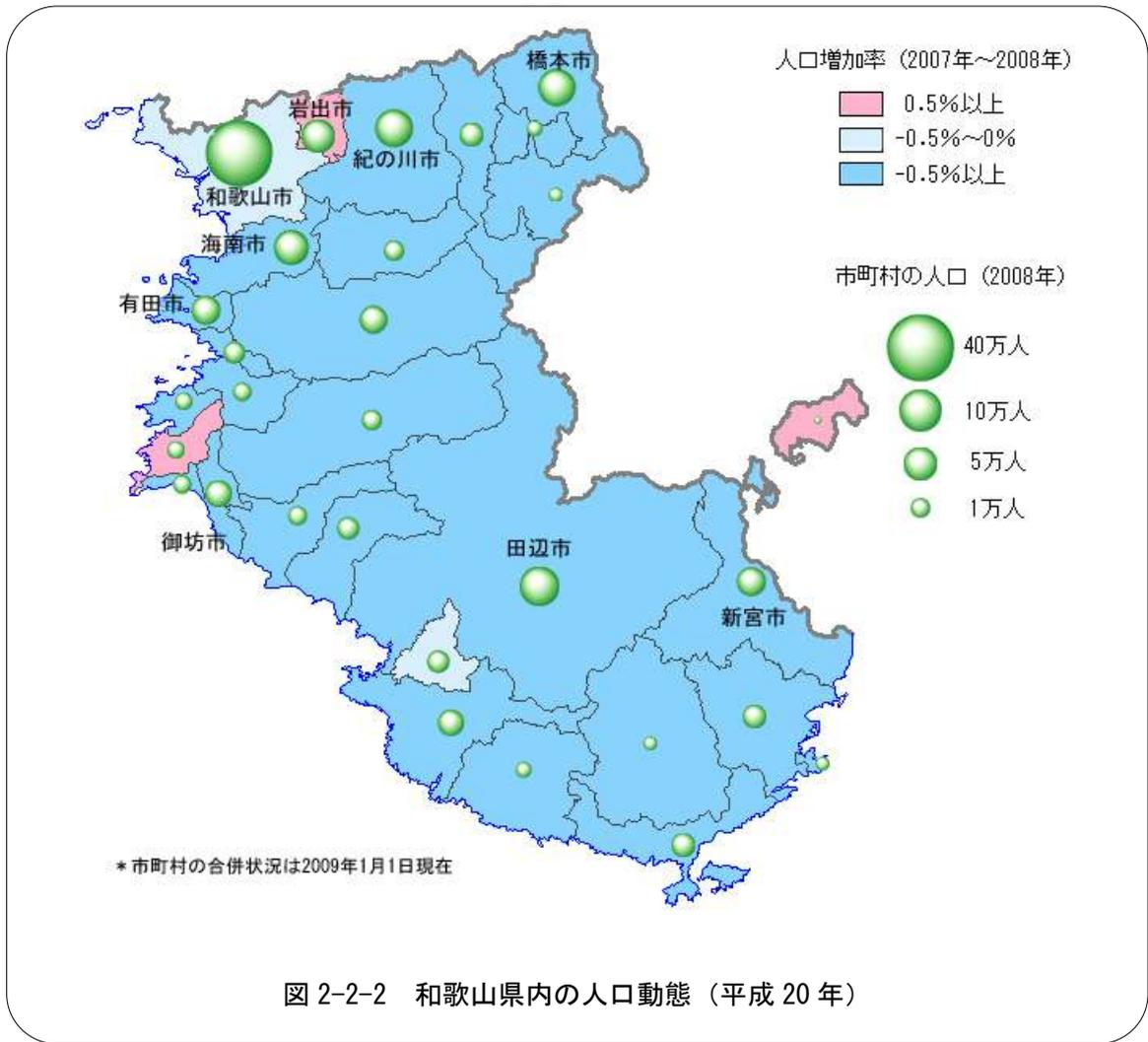
人口及び世帯あたり人口の推移を表2-2-1及び図2-2-1に、和歌山県内の人口動態を図2-2-2に示します。

表2-2-1 人口及び世帯あたり人口の推移

	世帯数 (世帯)		人 口 (人)	0～14歳	15～64歳	65歳以上
		(人/世帯)				
S55	14,042	3.75	52,615	11,717	34,678	6,220
S60	15,446	3.67	56,755	12,280	37,324	7,151
H2	17,547	3.54	62,156	12,344	41,442	8,370
H7	20,655	3.36	69,329	13,052	45,955	10,322
H12	22,164	3.18	70,447	11,837	46,264	12,346
H17	22,860	3.00	68,525	9,900	44,564	14,061



[出典]国勢調査、統計要覧はしもと(2006年度版)



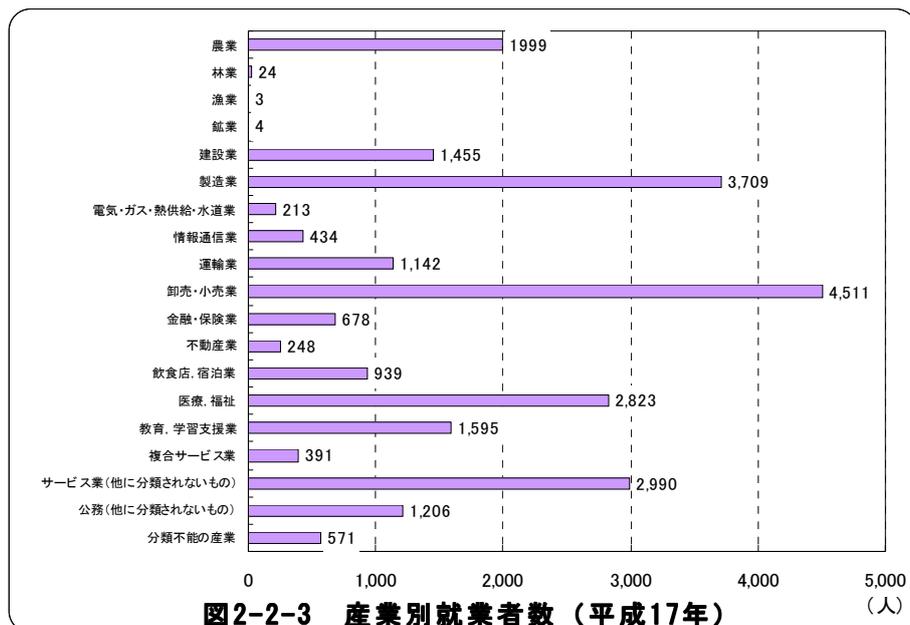
[出典]帝国書院ホームページ

2. 産業

事業所・企業統計調査でみる本市の産業別就業者は、直近の平成18年調査において、第一次産業が8%、第二次産業が21%、第三次産業が71%でした。産業別の内訳をみると、「卸・小売業」が最も多く、次いで「製造業」、「サービス業」、「医療、福祉」の順となっています。平成18年の産業別就業者数を表2-2-2及び図2-2-3に、和歌山県内の農業・漁業及び工業の様子を図2-2-4に示します。

表2-2-2 産業別就業者数（平成18年）

		就業者数(人)	比率
第一次産業	農業	1,999	8%
	林業	24	
	漁業	3	
第二次産業	鉱業	4	21%
	建設業	1,455	
	製造業	3,709	
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	213	71%
	情報通信業	434	
	運輸業	1,142	
	卸売・小売業	4,511	
	金融・保険業	678	
	不動産業	248	
	飲食店、宿泊業	939	
	医療、福祉	2,823	
	教育、学習支援業	1,595	
	複合サービス業	391	
	サービス業(他に分類されないもの)	2,990	
	公務(他に分類されないもの)	1,206	
分類不能の産業	571		



[出典]平成18年事業所・企業統計調査

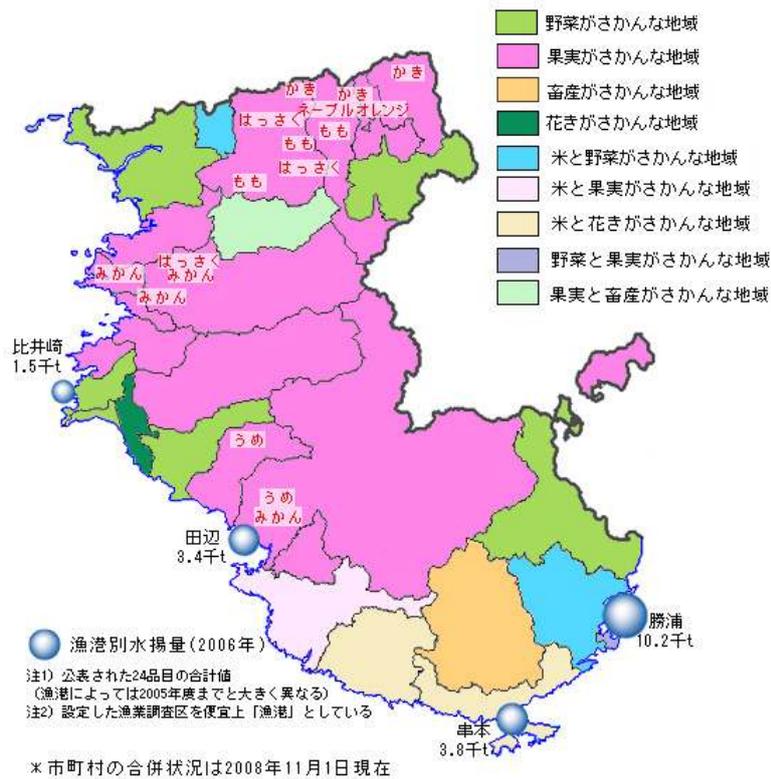


図 2-2-4 和歌山県内の農業・漁業及び工業の様子 (平成 18 年)

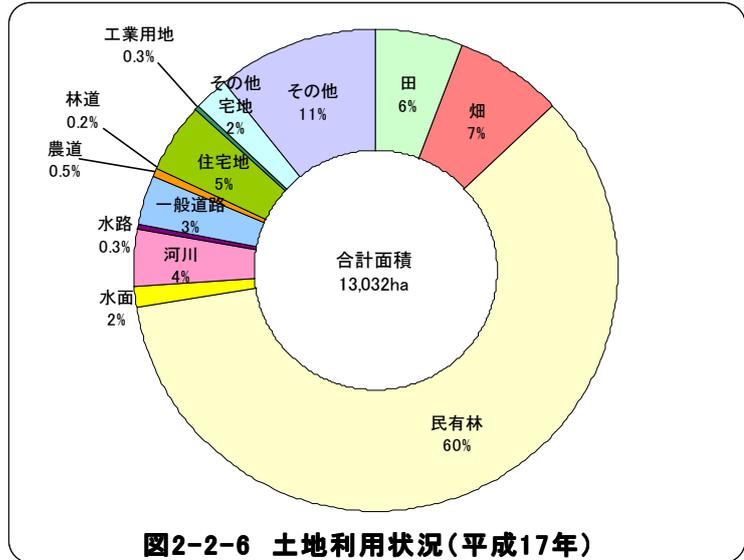
[出典] 帝国書院ホームページ

4. 土地利用

本市の土地利用は、平成17年の時点で森林が50%と最も多く、次いで農地（田及び畑）が13%となっており、主に自然的土地利用で構成されています。概ね、橋本駅周辺の市街地や住宅地をはじめとする既成市街地、紀見地区や隅田地区の大規模住宅開発地、山田地区や紀の川南岸沿いの農地、市域北部及び南部の山林に大別されます。

表2-2-3 土地利用状況（平成17年）

		面積(ha)
農地	田	753
	畑	936
森林	民有林	7,746
水面河川水路	水面	207
	河川	510
	水路	38
道路	一般道路	407
	農道	64
	林道	22
宅地	住宅地	598
	工業用地	43
	その他宅地	297
その他		1,411
合計		13,032



[出典]統計要覧はしもと(2006年度版)

5. 史跡・名勝、文化財

本市の史跡・名勝には、「陵山古墳」(古佐田)、「神野々廃寺塔跡」(神野々)、「名古曾廃寺跡」(名古曾)、「信太神社の樟樹」(高野口町九重)、「玉川峡」(北宿、南宿ほか)があります。

また、文化財には、国宝の「人物画像鏡」、重要文化財の「利生護国寺本堂」や「三彩釉骨蔵器」(通称:奈良三彩の壺)のほか、和歌山県指定文化財の「橋本の舟楽車」^{ふなだんじり}、「隅田八幡神社の秋祭」^{こおど}、「嵯峨谷の神踊り」などがあります。



[出典]橋本市ホームページ